

福島の子ども保養プロジェクト活動

5年レポート

2016 年度



コヨット!ほっこりママ会 セルフケアを学ぶ



コヨット!ほっこりママ会 県産農産物を使った料理教室



こども遊び塾 森の中でロープやネット遊びや土手すべりや木や竹でのものづくり



福島県生活協同組合連合会 福島県ユニセフ協会 福島大学地域環境論研究室

コヨット! とは



「コヨット!」とは、子ども保養プロジェクトの
こどもの③ ほんの③ プロジェクトの①
保養に「来よう!」と誘う意味も含まれています。

目的

福島の子ども保養プロジェクト（愛称：コヨット!）は、東京電力福島第一原子力発電所の事故による被災地の子どもたちや保護者をケアする具体的な取り組みとして実施してきました。放射能によるさまざまな制約がある日常生活から離れてのびのびと過ごすことで、ストレスを解消したり、他の家族やスタッフと触れ合うことで安心感を得たりすることが、親子関係の安定につながることに大きな意味があります。発災後満6年が過ぎ、住宅地や通学路などの除染も進み、空間線量は低下してきています。また、内部被ばくは食べ物でコントロールできることもわかってきましたが、子育て家庭の不安は解消されているわけではありません。

避難指示解除や住宅無償提供の打ち切りにより帰還せざるを得ない親子への寄り添い活動も重要になってきます。これまでの6年間の活動で得た教訓を生かして取り組んでいきたいと考えております。

私たちは、今後のコヨット!の活動は、子どもの心と成長、保護者特にお母さんの心身のケアを重点的に取り組み、一日でも早い被災の終わりを被災当事者が実感できるよう努めていくことに考えています。

4つのコース

コヨット!では、子どもの年齢や目的に合わせてこれまで4つのコースを設定しています。2015年から「こども遊び塾」週末保養コースもスタート。いずれのコースも、子どもや保護者が心身両面から保養することを目指しています。

① 週末保養企画 就学前（0歳～小学入学前）の子どもと保護者を対象に、福島県・山形県・宮城県の温泉宿に1泊2日で出かけ、子どもたちの外遊びと家族のリラックスタイムを支援

② 就学児週末保養企画 小学1年生～6年生の子どもたちを対象に、東京ディズニーランドや体験施設等に出かけ、子どもたちの様々な体験を支援

③ 県外受入れ保養企画 全国の受け入れ団体が企画した保養プログラム。小学生以上中学生未満の子どもたちを対象に（参加可能な年齢は各企画による）、長期の休み期間中に実施。2013年4月からは体験型の企画が満載

④ 「こども遊び塾」週末保養コース 2015年度新規企画として小学生を対象に森の中での自然体験

プロジェクト運営体制



週末保養企画 東山温泉



週末保養企画 遠刈田温泉

プロジェクト実施状況

（2011年5月9日～2017年3月31日）
（累計企画数：1,662企画 参加数延べ：81,013人）

『週末・県外受入れ保養企画』（2016年4月1日～2017年3月31日）

2016年度 実施状況

① 週末保養企画	56回	参加人数：1,651人
② 就学児週末保養企画	9回	参加人数：442人
③ 県外受入れ保養企画	19回	参加人数：481人

※受入団体名等については13ページ参照

実施期間

週末保養企画	：ほぼ毎週末	1泊2日
就学児週末保養企画	：ほぼ毎月1回	1泊2日
県外受入れ保養企画	：通年	1泊2日～1週間程度

主な費用

事前打ち合わせ費、参加者およびスタッフの宿泊費、バス借り上げ代、旅行保険費、通信費、会議費、広告費、等。



週末保養企画 リゾートインぼなり



週末保養企画 天童温泉



県外受入れ企画 生活協同組合コープみえ



県外受入れ企画 いばらきコープ 生活協同組合ネットいばらき



県外受入れ企画 生活協同組合コープあきた



県外受入れ企画 大阪府生活協同組合連合会



県外受入れ企画 埼玉県生活協同組合連合会



県外受入れ企画 生活協同組合ラコープ



県外受入れ企画 生活協同組合コープこうべ



県外受入れ企画 市民生活協同組合ならコープ

2011.12.1～2017.3.31まで 合計企画数：511企画 参加数延べ：18,099人

① 週末保養企画	：345企画	参加数：11,827人	（うち平日企画：6企画 参加数：104人）
② 就学児週末保養企画	：37企画	参加数：2,586人	
③ 県外受入れ保養企画	：129企画	参加数：3,686人	

『おもいっきり!そとあそび』コース （2015年度で終了）

対象

環境放射線量が高い福島県中通りの保育園・幼稚園の園児

実施団体

主催：福島県ユニセフ協会／福島県生協連
共催：福島交通株式会社 福島交通観光株式会社

実施状況

期 間	：2011年5月9日～2016年3月31日
企 画 数	：1,151企画
参加人数	：62,914名（延べ人数）



コヨット!のこれまでの取り組みの成果と課題



コヨット! アドバイザー
西崎 伸子
(福島大学行政政策学類教授)

1. はじめに

東日本・津波・原発事故大震災から満6年。2011年12月にコヨット!としてはじめて週末保養を実施してから5年半。当初は、避難したくてもできない親子にせめて短期間でも被ばくの影響を減らすためにと始めた保養の企画は、復旧・復興の進捗や参加者のニーズを考慮して、現在の4コースにまで拡大しました。

震災および原発事故は「放射能被害の恐ろしさ」だけでなく、「一人ひとりの基本的人権が真に守られる社会をいかに構築するのか」という根源的な問いをわたしたちに突きつけました。

被災地に暮らす当事者として、決して他人事にせず、継続的に向き合うためにも、自分たちの活動の軌跡をふり返し、今後について話し合う必要性を感じ、2017年4月に、コヨット!の企画運営を考える運営委員と、保養の引率を担うスタッフが一堂に会し、課題の整理をおこないました。週末保養企画のアンケート調査結果も参照して報告します。

2. コヨット! 5年半の軌跡

① 子どもたちが普段できない体験をし、のびのびと過ごす

長期にわたり、子どもたちは学校内外での外遊びを制限され、窮屈な思いをしてきました。子どもたちの心身への影響は、肥満の増加等で明らかになりました。外遊びの制限が解除された後は校庭や公園で遊ぶ姿がみられるようになりました。しかし除染がおこなわれない場所（森などの自然環境）で遊ぶことには未だとまどいがみられます。コヨット!の4コースでは、子どもたちの

びのび過ごせる外遊びと体験活動を充実させてきました。遊びを通して、親子が成長し、食事をもりもり食べる姿がみられるようになりました。

参加者の声

- ・子どもに外遊びをさせることができてよかった。まだ長時間外にいることをさせないようにしています。
- ・放射線をあびて今のところ病気の心配はありませんが、将来元気でいれるかが一番心配です。
- ・子どもが外遊びを楽しんでいる姿が素敵に見えた。放射能を気にしないで、砂場で遊べる環境はいつになるのかわかりません。
- ・震災後5年が経ち、ここ最近になり保養の存在を知りました。子どもたちがのびのびと遊べるのは中々ないので、たくさん遊ばせられ満足です。

スタッフの声

- ・バスの中で「僕たちコヨット大好きなんだ、すごく楽しみにしてたんだ。大きなお風呂も、ごちそうも」という子どもの声が聞こえてきた。
- ・コヨット立ち上げから携わり今までのいろんな方々と出会いました。毎日が不安で仕方ないお母さんや疲れきっているお母さん達がコヨットに参加して気持ちが楽になりましたと帰り際にお母さんから言われた一言が嬉しかったです。



KJ法で成果と課題を整理し共有した（2017年4月）

これまでの成果

② 保護者がリラックスし、他の親子と交流する

保護者は、子どもの遊びだけでなく、食の安全や子どもの健やかな成長を考える日々を過ごしてきました。また、子どもの成長について話をしたり、相談したりする機会が得られず、孤立している人たちも保養の参加者のなかにみられました。週末保養企画では、保護者同士が交流する機会をもてるよう、みんなで夕食をたべ、自己紹介をする機会をつくってきました。また、福島市や郡山市で不定期にひらく「コヨット! ほっこりママ会」では、専門家を交えて子育て全般に関する話をする交流会に力をいれてきました。週末保養参加者へのアンケート調査では、「放射線に関連した子育て不安について相談できる相手がいいますか?」と聞いており、ここ数年「保養先で一緒になった友人」という回答がみられるようになりました。少しずつですが、交流を促してきた成果がみえてきています。

参加者の声

- ・コヨットに参加して、いろいろな方と話ができて日常のストレスが解消された。
- ・同じ思いの人と話が出来てよかった。
- ・日頃、育児に時間が取られてしまい自分を磨く時間はありませんが、参加できてゆっくり自分磨きができました。
- ・悩んでいたもやもやを話して、皆さんと意見をシェアできてスッキリしました。(ママ会参加者)

スタッフの声

- ・保護者に「何でも言っていいいんだ…」「自分ものんびりしていいいんだ…」という雰囲気を感じてもらえるようにしています。大きな部屋で夕食を食べた後、子どもたちが集まって、少しはしゃぎ過ぎていても、けがをしない程度であれば、ただ見ていだけにしていきます。自分の子が、他の子と仲良くなっているのを見て成長を感じたり、いろいろな

情報を交換をしたり、おしゃべりをしたり、共通の時間と場を過ごすことがリラックスにつながり、相談できる友だちを見つけることにつながっているのだと思います。

③ 全国の支援者に、福島現状を伝える

被災地からは「忘れないで欲しい」という共通の願いが発信されています。全国からの支援で進めてきたコヨット!は県外の人たちに福島のことを知らせ、関心を持ち続けてもらうきっかけになっています。

* 全国のスタッフ支援者の声

長野県生協連専務理事 牛澤 高志 氏



長野県生協連の「東日本大震災被災地の復興支援を継続します」の方針に沿って、2013年から毎年、東日本大震災の翌日に長野県北部地震が発生した栄村でコヨット! in ながのチャレンジキャンプを実施してきました。子どもだけの3泊4日のテント生活、自由に森や野原を駆け回り、クワガタ・イモリを捕まえて飼育し、川に飛び込んで遊びます。栄村秋山郷では川原に温泉が湧いていますので、川遊びと温泉を同時に楽しめます。時には、子どもどうしの衝突もありますが、それを乗り越え、一回りたくましくなって帰っていく子どもたちの後ろ姿を見るたび、企画して良かったと感じます。栄村の人たちや他団体の協力も得ながらこれからも被災地支援の活動を継続していきます。



森探検
天池でイモリ探し



完成した秘密基地で
お昼ご飯

④ スタッフが学ぶ

保養を企画した当初は意識していなかったのが「スタッフ自身の学び」です。はじめは全員が保養の「素人」でしたが、引率や交流企画の経験を積み重ねることで、さまざまな企画に対して新しいアイデアを出せるようになりました。学生を含めて多様な世代がスタッフとしてかわり、親子のニーズを聞き、考え、議論するなかでスタッフ自身も日々成長しています。支援を受ける側からスタッフになり、支援者として動き出している人もいます。

♪ スタッフの声

・2012年1月にはじめてコヨット！の週末保養に参加しました。その時にスタッフ不足を聞き、ボランティアで引率をするようになりました。普段の暮らしを語る参加者の声に共感することで、それまで震災のことで思い悩んでいた自分の気持ちを切り替えることができました。はじまっばかりの夕食時は、参加者が打ち解けられない感じでしたが、今では「おいしい」という言葉が自然と出てくる和やかな雰囲気になってきました。



・スタッフとして子ども達と同じ目線で遊ぶことで、子ども達からも名前で呼ばれることが多くなった。保養の最後には、子どもたちから心温まる手紙やメッセージを送られ嬉しくなることもありました。引率って簡単な様で精神的に疲れますが、子ども達の笑顔を見ると疲れも忘れてしまいます。



3. 今後の課題

保養を実施してから5年半が経過し、軌跡を振り返りみえてきた課題をあげてみました。

- ・必要な人に情報を届けるための工夫
- ・他団体との情報共有
- ・遊びの工夫
- ・単発で終わらない工夫
- ・帰還者への支援や対応の工夫
- ・保護者の交流企画を増やす

- ・食の安全を知る企画を増やす（子どもにも）
- ・地域貢献になる企画を増やす
- ・全国への情報の発信
- ・全国の支援者へのお礼と報告の発信

など、様々な今後の課題がみえてきました。課題を整理しみんなで共有し、ひとつひとつ出来るところから解決して、より良い取り組みにしていきたいと考えております。



① コヨット！ほっこりママ会

私たちは、放射能と向き合いながら、福島で暮らさざるを得ない、子育てをし続けたいといけな保護者。人によって放射能に対する考え方や受け止め方が異なる中で、思ったことが言えずに苦悩する保護者をひとりぼっちにさせない、誰も置き去りにしない取り組みも重要であると考え、こうした保護者、特におかあさんたちの心の整理や精神的ケアのお手伝いをして一日でも早い被災の終わりを被災当事者が実感できるよう、日本プレイセラピー協会、福島県臨床心理士会と連携して行ってきました。

今までの「コヨット！ほっこりママ会」の取り組みか



日本プレイセラピー協会
本田 涼子 氏

母親たちが集まって交流をし、子育ての中で気になっていることについて話し合ったり、自分自身のセルフケアや、子どもの安心感を高める遊び方や関わり方について、臨床心理士と一緒に体験をする「コヨット！ほっこりママ会」も4年になります。継続的に参加される方もいれば、毎回新しく参加される方もおります。

継続的に参加される方からは、お子さまの年齢と共に変わっていく悩みや不安、また逆にその成長についての話などをお聞きしますし、新しく参加される方からは、福島での原発事故後数年たってから妊娠・出産された方もいて、福島で新しく命を育てることになったからこそ感じ始めた不安についての話などをお聞きします。

また、原発事故後の避難先から戻られた方も参加されるようになり、この数年が多くの困難と変化への対応の連続だったことがわかります。

世界中どこで子育てをしようと、それを担う人が、誰

らみえてきた課題として、もっと多くのケアを必要としている方たちに知ってもらうために、週末保養の参加者への呼びかけや他の団体や生協の店舗などを通して広く広報をしていくこと、内容も毎回テーマを「子どもの病気の相談」「ママのリラックス」「食の安全・安心」などにしほり同じような悩みを持つ人同士の出会いの場になったり情報の共有ができるような場にしていければと考えております。

震災時5～10才位だったお子さんが現在中学生になっている保護者や帰還してきた保護者へのフォローも考えていかなければなりません。

参加者の声

- ・いっぱいいっぱいの生活の中、ママ会に参加することで、ちょっとした悩みもセラピーの先生の言葉で解消され、ストレス解消が出来てよかった。アロマオイルを使うことで心にゆとりが出ました。
- ・地産地消の料理教室では、福島県産品の安全性を理解でき、今までは県外産を購入する事が多かったが、福島県産を安心して買うことができます。

の助けも得ず、誰にも相談できずに、上手に子育てをすることはできません。

普段、関東で仕事をしている私は、よく子育てを担う方に、一人でがんばりすぎないこと、信頼できそうな誰かに悩みやつらさを話すこと、たわいもないおしゃべりができる人をみつけること、などをお伝えします。

ただ、福島の保護者のみなさんと接していて感じるのは、そうした「たわいもないおしゃべり自体にも気を使う」日常の中で生活しているということでした。原発事故後、意見の違いから家族内の大人同士の喧嘩が増え、親同士でも誰がどのような意見なのかもわからないストレスの高い中で子育てをしているということです。

「子どもを一人育てるには村が必要」というアフリカの諺があります。子どもが安心して過ごすためには、子育てを担う人が安心していることが一番大切なことです。子育てを担う人が安心できるのは、自分の気持ちを汲み、子育てをしやすくする支えがあることです。「コヨット！ほっこりママ会」は、小さな取り組みのひとつなのかもしれませんが、そんな保護者の支えの一部になることができればと願っています。

② こども遊び塾

発災後、野外活動が制限され、十分外遊びができずにきた小学校低学年の子どもを対象にした保養企画です。これまでの取り組みからいろいろな課題が出てきました。

人間が生命を存続させるために自分の身を守るための機能、自律神経系・免疫系・内分泌系をコントロールする機能がある大脳辺縁系は、幼児期に成長すると言われて、屋外で遊ぶことにより、自然から受ける刺激で、より成長が高まるとも言われています。

「こども遊び塾」の企画内容を広く知ってもらうため、週末保養の参加者への呼びかけや帰還してきた方など参加してほしい人に企画の目的や主旨や情報をしっかり届ける工夫がより必要となってきました。

「森遊び」を中心にいろいろな自然素材や食材を

使った魅力的な企画を考え、スタッフは子どもたちの自主的な遊びや体験をサポートしていくことが重要であるということを再確認し、企画内容もより良いものと考えていかなければならないと考えております。

学生ボランティアスタッフにも協力していただき子どもたちの遊びの幅を広げていけたらと思います。



スタッフの声

- ・森での外遊びを中心とする週末保養を実施する事で、参加し天候に恵まれた家族には自然の中での遊びを満喫して頂きました。
- 今後課題は天候に恵まれなかった場合でも充実した企画にする事と、「外遊び」の重要性をもっと知って頂き参加者を増やして行く事です。



NPO法人プレーワーカーズ代表理事
須永 力 氏

遊びは、子どもの心身に直結した、子どもの生きる糧だと確信しています。遊びが豊かであればあるだけ、子どもの心身もまた豊かになるのだと思います。

東日本大震災の地震と津波によると考えられる福島第一原子力発電所の事故で、福島の子どもの遊びも膨大な被害を被りました。事故は今でも子どもの行動に影を落としています。例えば地面に直に座らない。水たまりに入らない。外にある物に触れない…。そこには放射能があるかもしれないからです。これでは外で本気で遊ぶことは困難です。子どもの心身に非常なストレスが掛かっています。

大人は、子どもの運動不足と遊び欲求昇華のため、屋内で体操やレクリエーションゲームをやらせ、外遊びの要素を真似た室内遊び場を作りました。しかしそれでは子どもが生来求める遊びの質からはかけ離れたものにしかならず、子どもの健やかな生活の要素とは成り得ません。それに気づいたコヨット！は沼尻県有林に安心して子どもを遊ばせられる場所を地元の森林組合や私たちプレーワーカーズとともに作りました。

いろいろな制約もありますが、中でもいつも「子どもの遊び」を軸足に行動することを忘れずに、子どもたちの自由な発想の遊びをサポートする活動をコヨット！と協力し、一緒に立ち向かっていきたいと思っています。



子どもたちの多機能型の「居場所」「遊び」「参加」づくり

こどもたちの未来のために

2016年11月、「協同組合において共通の利益を形にするという思想と実践」が、国連教育科学文化機関（UNESCO・ユネスコ）の無形文化遺産として登録されました。



今回のユネスコ無形文化遺産への登録は、「協同組合の思想と実践」を高く評価し、過去の遺産（レガシー）とするのではなく、未来に継承していく遺産（ヘリテイジ）、つまり世界に協同組合の思想と実践を広げていくことの重要性を世界中に訴えたものです。

コヨット！をご支援いただいているのは、もちろん協同組合だけではありませんが、たとえば夏休みの県外受入企画などでは、多様なネットワークで取り組んでいただいております。「共通の利益を形にするという思想と実践」の何ものでもありません。

私たちは、こうしたコヨット！の取り組みの成果とご支援いただいている方々への恩返しと、なにより、こどもたちの未来のために、ヘリテイジとしての遺産を継承していきたいと考えています。

人の身体と心の土台を形成する重要な幼少期と原発事故後の大混乱期がかぶってしまった福島の子どもたちは、運動発達が阻害されたばかりでなく、肥満の増加など新たな健康問題を引き起こしました。

また、子どもの脳の発達にも少なからぬ影響を与えていると考えています。

人間が生命を存続させるため、自分の身を守るための自律神経系・免疫系・内分泌系をコントロールする機能がある大脳辺縁系は、幼児期に成長すると言われ、屋外で遊ぶことにより、自然から受ける刺激で、より成長が高まるとも言われています。この部分が成長するのは9歳までだということが科学的にもわかっています。



従って、震災の年に生まれた子どもが、満10歳の誕生日を迎える2021年3月までは、少なくとも「コヨット！」を継続させ、福島の子どもたちの健全な成長を促してあげたいと願っています。

子どもは、遊びを通して、さまざまなことを習得します。運動神経が発達し、体力がつくばかりでなく、他人との接触やルールを守ることなどから社会性を身につけることができます。

子どもの遊びは、目に見える効果がすぐに出るわけではありませんが、しかるべき年代にやっておかなければならない大事な経験です。

そこで、2015年6月に、県より沼尻県有林を無償で借り受け、地元の森林組合や「里山の復活活動組織」や「一般社団法人プレーワーカーズ」と連携し、「こども遊び塾」に取り組んでいます。これまでに311名の子どもたちと保護者に参加いただきました。

その「こども遊び塾」をもっと充実させたいと考え、これまでの県外受入企画で好評だった「農業体験」「食農体験」「野外教室」などの体験型企画ができるより充実したフィールドづくりを目指したいと考えています。

私たちは、このフィールドづくりを地域の皆さんや福島大学、多様な人たちとのつながりで創り上げたいと考えています。

未来に継承していく遺産とするために

東北で唯一農学部がなかった福島県に、「福島大学食農学類」が2019年4月開学予定となっています。

この「食農学類」では、地方自治体・農業関係機関と密接に連携しながら、地域ごとの問題解決をめざし、プロジェクトを設置し、学生は地域に通り、課題の発見から解決策の提案までを経験し、専門知識を応用する実践力を身につけるといった「フィールド農学」の構想をもっています。

「こども遊び塾」がある猪苗代町中ノ沢地区そして中ノ沢地区を含む吾妻地区は、そもそも過疎化が進んでいましたが、震災後、風評被害の影響から交流人口が減少し、過疎化に拍車がかかってしまいました。

豊かな里山があり、山菜の宝庫であり、近くには景勝地である磐梯朝日国立公園があり、自然環境豊かな地域です。また、良質な源泉をもつ温泉地でもあります。

猪苗代湖や野口英世博士の生家、全国からの修学

旅行で賑わう会津若松市へのアクセスも便利で、歴史探訪も手軽にできます。こうした複合的な体験活動が可能な地域の活性化を福島大学食農学類「フィールド農学」の構想のもとに実現させ、学生のみならず、子どもたちが、自然観察、里山体験、食農体験、火育、小動物によるアニマルセラピー、森林組合との連携による「きのこ栽培」や木育等々、多機能型の「居場所」「遊び」「参加」ができる地域にしていきたいと考えています。

将来的には、全国に発信、全国からたくさんの子どもたちや青少年が集まれる場所にし、福島の子どもた

ちや青少年との交流が図ればとの思いがあります。

実現のためには、まだまだ越えなければならないハードルがありますが、地域はもとより、全国の皆さんのご理解とご協力、ご支援を賜りながら、コヨット！の次なるステージに発展させていけたらと考えています。



子どもたちの健康な発達のために食農自然の総合学習の場を



福島大学経済経営学類教授

小山 良太 氏

「コヨット！」や「どじょスク」※にご協力いただいた皆様、お待たせいたしました。東北で唯一農学部のなかった福島県に、ついに農学系の新学部が誕生します。2年後の平成31年4月1日開設に向けて福島大学農学群食農学類（仮称）の設置準備を進めています。国立大学において「農」学部の新設は、実に40年ぶりとのことです。原子力災害によりダメージを受けた福島県農業の再生の要として、次世代の食農人材を養成しようと考えています。

ポイントは「食」「農」学類という名称です。これからの農業は、生産、加工、流通、消費までもを包含したフードシステムとしての視点が重要です。フードシステムとは、食料品の生産から流通・消費までの一連の領域・産業の相互関係を一つの体系として捉える概念のことです。原子力災害と「風評」問題の中で食の場（消費・生活空間）と農林漁業の場（生産空間）をあらためて結びつけることの重要性を痛感しました。

※どじょスク：「土壌スクリーニング・プロジェクト」は、より安全で安心な生産―流通―消費のシステムをつくらうとする取り組み。全国の生協から31組織、延361名のボランティアに参加いただき、果樹園10,158筆・27,308地点、水田24,480筆・63,256地点、大豆等畑566圃場・1,465地点、合計35,204筆・92,029地点すべての測定を2014年4月に終了しました。



猪苗代町町長
前後 公 氏

猪苗代町は、磐梯山と猪苗代湖に代表されるように、豊かな緑や清らかな水に恵まれた雄大な自然が脈々と息づいている山紫水明の地です。これらの自然が織りなす四季折々の美しさに加え、世界の偉人「野口英世博士」の生家をはじめ多くの名所旧跡を有する全国

でも有数の観光地です。本町では、地域内に存在する「人・もの・情報」など有形、無形のあらゆる資源を結合させ、そして循環させ、地域の自立を図るという「有機の里構想」のもと諸事業に取り組んでおり、「子どもたちの多機能型の居場所・遊び・参加づくり」が、福島大学の「フィールド農学」と相まって取り組まれることは、こうした諸事業に資するものと考えています。

収入の部		(単位：円)
科 目	金 額	
くらしの応援募金	59,395,189	
日本ユニセフ協会支援金	8,400,434	
その他支援金計	24,314,032	
帝国ホテル労働組合	20,000,000	
市民生活協同組合 ならコープ	2,670,013	
高知県学校生活協同組合	721,496	
平和の杜学園 むつみ幼稚園	390,427	
熊本県ユニセフ協会	124,636	
協同組合ネットいばらき	100,000	
石川県学校生活協同組合	100,000	
奈良県生活協同組合連合会	50,000	
茨城県農業協同組合	40,000	
香川県学校生活協同組合	32,210	
ソリダリテジャポン	20,000	
福島県高齢者大集会 実行委員会	20,000	
その他募金	45,250	
雑収入計	367,312	
グッズ等売り上げ	367,312	
受取利息	1,857	
収入計	92,478,824	

支出の部		(単位：円)
科	目	金 額
人件費		7,991,850
通信費		410,766
バス代		14,170,542
宿泊代		19,605,995
その他旅費		4,662,475
レポート		1,210,000
会議費		1,547,694
保険料		1,060,944
支払手数料		44,302
雑費計		3,557,380
コヨットグッズ代等		797,480
ビンゴゲーム景品代		16,530
お菓子代		486,149
おもちゃ代		81,156
ホームページ更新他		618,000
その他		1,558,065
支出計		54,261,948
差引残高		38,216,876

※2017年度以降の活動に使用します

※2017年度の活動に使用します

組合名	金 額
生活協同組合コープみらい	8,818,286
京都生活協同組合	3,377,208
生活協同組合コープやまぐち	2,474,275
とちぎコープ生活協同組合	1,640,926
生活協同組合おかやまコープ	1,000,000
こうち生活協同組合	900,000
生活協同組合ユーコープ	800,000
生活協同組合くまもと	756,301
生活協同組合コープあきた	550,000
鳥取県生活協同組合	512,604
トヨタ生活協同組合	391,231
生活協同組合コープながの	389,555
生活協同組合コープみやぎ	378,830
日本生協連・日本コープ共済連・コープ情報システム㈱	337,398
青森県生活協同組合連合会	321,000

組合名	金 額
生活協同組合コープぎふ	300,000
生活協同組合コープみえ	300,000
日本生協連・日本コープ共済連	299,067
生活協同組合コープこうべ	268,250
生活協同組合共立社	263,635
大阪よどがわ市民生活協同組合	176,075
日生協健康保険組合(本部 健康保険委員会)	148,440
富士フイルム生活協同組合	147,757
生活協同組合コープかがわ	124,200
生活協同組合連合会コープ北陸事業連合	84,596
日生協健康保険組合(関西 健康保険委員会)	72,080
日生協健康保険組合(北海道東北 健康保険委員会)	37,800
愛媛県生活協同組合連合会(生協まつり実行委員会)	20,000
山形県学校生活協同組合	20,000
日生協健康保険組合(東海北陸 健康保険委員会)	17,320
合 計	24,926,834

募金の受付口座

東北労働金庫
福島支店 普通預金 6400120
「福島の子ども保養プロジェクト」



8月28日に帝国ホテル労働組合様から支援金をご寄贈いただきました



福島県外受入企画による支援

2016年	
7/9~10	いばらきどきどき体験ツアー（第18回） いばらきコープ [®] 生活協同組合/協同組合ネットいばらき
7/9~10	福島の子ども保養プロジェクトinパル茨城 生活協同組合パルシステム茨城/協同組合ネットいばらき
7/16~18	2015 コヨット! in 埼玉 埼玉県生活協同組合連合会/埼玉県ユニセフ協会
7/23~25	福島の子ども保養プロジェクト in ぐんま 生活協同組合コープぐんま
7/24~31	ほんわかのびのび夏休みinはこだて2016 子どもを応援する会「ほんわか」
7/27~29	コヨット! in あきた 秋田なまはげツアー 生活協同組合コープあきた
7/28~31	コヨット in ながの チャレンジキャンプ 長野県生活協同組合連合会
7/29~ 8/2	福島の子ども保養プロジェクト in よしまキャンプ 生活協同組合コープこうべ/神戸YMCA/兵庫県ユニセフ協会
7/29~ 8/1	福島の子ども保養プロジェクト in なら 市民生活協同組合ならコープ
8/2~3	コープあおもり ねぶたツアー 生活協同組合コープあおもり
8/4~6	夏休み コヨット! in 三重 生活協同組合コープみえ
8/5~7	福島の子ども保養プロジェクト in とやま2016夏 富山県生活協同組合連合会
8/20~24	コヨット! in おおさか 2016夏 大阪府生活協同組合連合会
11/26~27	いばらきどきどき体験ツアー（第19回） いばらきコープ [®] 生活協同組合/協同組合ネットいばらき
12/10~11	福島の子ども保養プロジェクト in 茨城 生活協同組合パルシステム茨城
2017年	
3/24~28	コヨット! in おおさか 2017春 大阪府生活協同組合連合会
3/25~28	2017春 コヨット! in えひめ 2017年春 コヨット! えひめ実行委員会
3/26~29	コヨット! in ながさき 2017 生活協同組合ウラコープ
3/27~29	福島の子ども保養 in 神奈川 神奈川県生活協同組合連合会/2017年春福島の子ども保養実行委員会



子ども保養プロジェクト in とやま2016夏



福島の子ども保養プロジェクト in 神奈川



福島の子ども保養プロジェクト in よしまキャンプ



福島の子ども保養プロジェクト in ぐんま



コープあおもり ねぶたツアー



コヨット! in ながの チャレンジキャンプ



2017春 コヨット! in えひめ



ほんわかのびのび夏休み inはこだて



福島の子ども保養プロジェクト in パル茨城

協力団体

2017.3.31現在

日本生活協同組合連合会
公益財団法人日本ユニセフ協会
認定NPO法人 世界の子どもにワクチン
を 日本委員会
株式会社 ポケモン

その他団体

日本労働組合総連合会福島県連合会
福島県労働福祉協議会
東北労働金庫福島県本部
全労済福島県本部
福島県農業協同組合中央会
福島県漁業協同組合連合会
福島県森林組合連合会
磐梯高原リゾート・インぼなり
協和交通株式会社
JTB東北 法人営業福島支店
福島交通観光株式会社
株式会社 SAGA DESIGN SEEDS
新潟県労働金庫
石川県立飯田高等学校
滋賀県立彦根東高等学校新聞部
政田農園（北海道森町）
トトロの里富原観光果樹園（北海道七飯町）

生協関連

福島県生活協同組合連合会会員生協
コープふくしま、コープあいづ、
福島県南生協、パルシステム福
島、あいコープふくしま、福島医
療生協、きらり健康生協、郡山医
療生協、会津医療生協、浜通り医
療生協、福島県学校生協、福島大
学生協、福島県労済生協
生活協同組合コープさっぽろ
北海道学校生活協同組合
生活協同組合コープあおもり
青森県生活協同組合連合会
青森県民生活協同組合
青森県庁消費生活協同組合
生活協同組合コープあきた
秋田県北生活協同組合
みやぎ生活協同組合
宮城県生活協同組合連合会
生活協同組合共立社

山形県生活協同組合連合会
山形県学校生活協同組合
いばらきコープ生活協同組合
生活協同組合パルシステム茨城
茨城県生活協同組合連合会
茨城県学校生活協同組合
とちぎコープ生活協同組合
生活協同組合コープぐんま
生活協同組合パルシステム千葉
千葉県生活協同組合連合会
生活協同組合コープみらい
生活協同組合連合会コープネット事業連合
埼玉県生活協同組合連合会
東京都生活協同組合連合会
東都生活協同組合
東京南部生活協同組合
北区・荒川区・足立区生協連絡会
農林水産省職員生活協同組合
生活協同組合・消費者住宅センター
生活協同組合ユーコープ
生活協同組合うらがCO-OP
富士フィルム生活協同組合
神奈川県生活協同組合連合会
川崎医療生活協同組合
全日本海員生活協同組合
生活協同組合コープながの
長野県生活協同組合連合会
生活協同組合コープにいがた
富山県生活協同組合
生活協同組合コープいしかわ
生活協同組合連合会 コープ北陸事業連合
福井県民生活協同組合
福井県生活協同組合連合会
生活協同組合コープあいち
トヨタ生活協同組合
みなと医療生活協同組合
生活協同組合コープぎふ
生活協同組合コープみえ
生活協同組合コープしが
滋賀県生活協同組合連合会
わかやま市民生活協同組合
京都生活協同組合
大阪いずみ市民生活協同組合
大阪よどがわ市民生活協同組合
生活協同組合おおさかパルコープ

大阪府生活協同組合連合会
市民生活協同組合ならコープ
生活協同組合コープこうべ
生活協同組合おかやまコープ
日立造船因島生活協同組合
三井造船生活協同組合
生活協同組合ひろしま
生活協同組合連合会 コープ中国四国事業連合
鳥取県生活協同組合
生活協同組合しまね
生活協同組合コープやまぐち
山口県生活協同組合連合会
生活協同組合コープかわわ
香川県庁消費生活協同組合
生活協同組合とくしま生協
愛媛県生活協同組合連合会
生活協同組合コープえひめ
こうち生活協同組合
高知県学校生活協同組合
高知県生活協同組合連合会
生活協同組合連合会 コープ九州事業連合
エフコープ生活協同組合
福岡県学校生活協同組合
コープさが生活協同組合
生活協同組合ララコープ
福祉生活協同組合いきいきコープ
生活協同組合コープおおいた
大分県学校生活協同組合
生活協同組合コープみやざき
生活協同組合くまもと
生活協同組合コープかごしま
生活協同組合コープおきなわ
日本生活協同組合連合会
日本コープ共済生活協同組合連合会
全国学校用品株式会社
株式会社コープクリーン
コープ情報システム株式会社
日生協企業年金基金
日生協健康保険組合
日生協本部健康保険委員会
れいんぼーくらぶ
公益財団法人生協総合研究所
国際協同組合同盟（ICA）
協同組合ネットいばらき
全国消費者団体連絡会

ボランティアスタッフ支援

生活協同組合コープみえ、生活協同組合共立社、みやぎ生活協同組合、日本医療福祉生活協同組合連合会、
日本生活協同組合連合会、桜の聖母短期大学

物資のご寄贈

(2016年度)

作って動かして子どもが
楽しむ木製自動車工作
キット（モーター付）

連合福島様より
200台



右：今泉裕連合福島会長

ふくしまのおいしいお米
を食べて元気に！

JAふくしま未来様より
米（あだちのめぐみ） **1t**



右：JAふくしま未来代表理事組合長菅野孝志

全国各地の「いちおし農畜水産物」を送っていただき「食のこと・楽しくおいしく学ぶ取り組み」を
今後企画していきたいと思っています。ご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。

福島の子ども保養プロジェクト紹介用ボックスを貸し出いたします

プロジェクトの主旨や活動などをまとめたタペストリーなどで紹介していただけるボックスを貸し出
しております。イベント等でご利用下さい。

ボックス内容

- 内容紹介タペストリー（W60×H85cm） 4枚
- 参加した子どもからのメッセージ 2枚
- オリジナル募金箱 2個

スーツケースにて発送します。送料については借
り側負担になります。貸出お申込みは、
FAXお申込み用紙またはお申込みフォー
ムで受付しております。



グッズを買って応援しよう！

オリジナルグッズ（絆創膏、ピンバッジ、
クリアファイル、ボールペン、マグネット、
トートバック等）を販売いたしております、
イベント等でご利用下さい。売上金はすべ
てコヨットの募金になります。



トートバック
(W36×H37cm) @500円



絆創膏、クリアファイル、ボールペン @100円
ピンバッジ、マグネット（2個） @200円

プレーカー「あそぶ〜べ〜」を貸し出いたします



ならコープ寄贈

プレーカーの中には「プレーキット」と呼ばれる、手作
りの遊び道具がたくさん詰まっています。工作をし
たり、絵の具で思いっきり絵を描いたり、ペーゴマや釘さ
しをしたり。子どもの「やってみたい！」気持ちや遊び
場に合わせて、遊び方は自由自在！



「コヨット!」とは、
子ども保養プロジェクトの
こどもの^こ ほよ^ほうの^う
プロジェクトの^と
保養に「来よう!」と誘う意味も
含まれています。

発行元

福島の子ども保養プロジェクト（福島県生活協同組合連合会内）

〒960-8105 福島県福島市仲間町4-8 ラコパふくしま4階

TEL 024-522-5334 FAX 024-522-2295

コヨット! 公式ウェブサイト <http://fukushimakenren.sakura.ne.jp/>